

最優秀賞

「男女のあり方」

中札内中学校一年 三浦 紡子

皆さんは、これまでの生活のなかで、男女のかべというものを感じたことはありますか。

例えば、休日、一緒に遊ぶことが多いのは同性で、なんとなく話をしやすいのも同性。異性の友達もいるけれど、特別仲がいいのは同性、など、たくさんの方に思いあたるかと思います。それは、女と男という違いがあるなかではあたりまえのことなのかもかもしれません。ですが、トランスジェンダーなど、性の多様性が認められてきている今、男女は皆平等に、「女だから」「男だから」という偏見などないような社会をつくるのが大切なのではないでしょうか。

私は今まで、あまり男女を意識したことがありませんでした。それは、私が6年間通っていた上札内小学校では先生から生徒までが一つの家族のようだったからだと思います。休み時間に遊ぶ時は、男女・学年関係なしにやりたい人全員で行います。全校授業では、自分の考えた事を、先生にも、上級生にも、下級生にも聞いてもらうのです。それが私の

あたりまえだったのですが、今思うと、それはとても男女、もつと大きくいえば人間関係のあり方の理想に近かったのかなと感じます。もし、そんなふうのびのびと、皆で高めあいながら生活できたら、とても幸せだと思いますか。

でも、理想というのはあくまでも理想であって、簡単にその通りになるわけがないでしょう？という方もたくさんいるでしょう。もちろん、その通りです。簡単にはできません。ですが、自分とは違う箇所を否定せずに、その人の個性と認めることで、男女のかべは少しずつなくなっていくと思います。ここまでにあげた事は、あくまでも私の考えにすぎません。男女のあり方について、理想の未来はどんなものか、そのために自分は何ができるのかを、あなたなりに考えてみてはいかがでしょうか。